

図書館だより

平成22年12月

主な内容

- 巻頭言 1
- 海士町中央図書館オープン 2
- 「学校図書館活用教育図書」が整備されました... 2
- 「この本いいよ！」島根の高校生・高専生おすすめの一冊を展示しました... 2
- 館内資料展示コーナー 3
- レファレンス事例紹介 3
- おしらせ・利用案内 4

行事予定は、カウンターでお渡しします。

島根県立図書館報 第191号

「子ども読書県しまね」で伝えたいこと

島根県知事
溝口 善兵衛

私は、何かよく知りたいことができると、図書館によく行きます。知りたいことが特定している場合は、インターネットで調べれば大体の事はすぐわかりますが、何かヒントを得たいときとか、自分にはない考えや違ったアイデアを見たいときなどには、図書館の棚で目につく本をパラパラとめくるのがいいのです。

まず、関係がありそうな本を5～6冊借りて読んでみて、次にその中で引用されている本をさらに借りて読んでいるうちに、相当程度、自分が求めているものに出会うことができます。

こうした「図書館で調べる」、「本で調べる」という作業は、知りたい部分だけでなく、その周辺にも関心や好奇心を拡げてくれて視野が広がり、ものをよく考えることに役立ちます。

多くの人が、「読書は大切だ」と考えています。しかし今日では、テレビ、ゲーム、DVDなどが身の回りにあふれていて、若い人たちの本離れが進んでいます。映像には、物事を直接伝える力があり、見ていてわかりやすかったり、見る人をひきつけるのですが、子どもの自由な想像力を育てるには刺激が強すぎる場合があります。

本の場合は、ゆっくり時間をかけて読まないで理解できませんし、よくわかるためには読む人の想像力を必要とします。想像力は、文字で表現されてい

る世界を自分の頭の中で思い描く力で、考える力を生み出すためのエネルギーのようなものです。

未知なるものへの関心を引き起こし、自分の世界や物の見方を拡げてくれる本に出会うことは、子どもが心豊かに成長する上で、大変、大事なことです。子どもたちがそうした本に出会う環境をつくることは、私たち大人の仕事です。

県では、子どもたちが本に親しむ取り組みとして「子ども読書県しまね」の運動を進めています。今、島根の図書館は、司書の皆さんの努力により、子どもたちが目を輝かせながら本を開き、読書を楽しむ場に大きく変わってきています。

これからも、本に親しむことの素晴らしさを子どもたちに伝えていきたいと考えています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



「東出雲町立揖屋小学校にて」



平成24年10月25・26日
全国図書館大会島根大会 (松江市) 開催!